

これが世界最高峰のブラジル・サッカーだ！

『2014年FIFAワールドカップブラジル大会

1年後の総括と今後』

2014年ブラジル大会から1年経った現在、世界のサッカーはどのような方向に進もうとしているのでしょうか？

数々の日本代表選手を育てた松本光弘筑波大学名誉教授、トウーリオの日本の「親」でブラジル及び日本のサッカー事情に精通するマルコス宗像氏、ドイツに33年間在住、サッカーアナリストとして活躍中の庄司悟氏、日韓で指導経験があり、KFAのTSGの一員として3大会を視察するなどの経験を持つ姜英哲氏に、ピッチ内外の動向について分析して頂きます。

【日時】

2015年9月23日(水・祝) 16時～20時 ※15時30分開場

【場所】

阪南大学あべのハルカスキャンパス(23階) 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1番43号
地下鉄御堂筋線・谷町線:天王寺駅直結
近鉄南大阪線:阿部野橋駅直結 JR:天王寺駅から直ぐ

【開演前特別講演】

16時～16時45分 開演前特別講演 講師:松本 光弘氏(筑波大学名誉教授)

2014年ブラジル大会名場面50選 (イマジネーション溢れるプレーを松本先生が概説。それを参加者の皆様が所定用紙に簡単チェック!この企画は調査・研究目的で実施)

【講演内容】

17時～17時20分 講師:姜 英哲氏

EAFF 東アジアカップ2015(中国・武漢)から見える東アジア各国サッカーの動向

17時20分～17時40分 講師:庄司 悟氏

『データ』分析からみたドイツ優勝の真髓、そしてW杯後のブンデスリーガの新傾向

17時50分～19時10分 講師:マルコス宗像氏

「ブラジル大会とは一体なんだったのか!？」

開催国ブラジルの苦悩と受け止め方、そして今後の方策

19時20分～20時 パネルディスカッション

パネラー:姜英哲氏、庄司悟氏、松本光弘氏、マルコス宗像氏(五十音順)

司会:須佐徹太郎(阪南大学サッカー部 監督)

※パネルディスカッション終了後に天王寺都ホテル(徒歩3分)にて懇親会を開催する予定です。

参加費:無料(懇親会の参加費は5,000円)

参加申し込み・問い合わせ先:阪南大学流通学部 早乙女 誉

TEL:072-332-1224 e-mail:saotome@hannan-u.ac.jp

主催:阪南大学スポーツマネジメントコース、阪南大学サッカー部

協賛:産経新聞社・ウェブ産経

一般社団法人スポーツ・連鎖・発展機構(SCDO)

特定非営利活動法人日タイ国際交流推進機構(JTIRO)

関西クラブユースサッカー連盟



これが世界最高峰のブラジル・サッカーだ！

『2014年FIFAワールドカップブラジル大会

1年後の総括と今後

【講師紹介】

松本 光弘氏

筑波大学名誉教授
筑波大学蹴球部監督・部長(1978.04～2005.03)
元(財)日本サッカー協会理事、前JFA規律・フェアプレー委員長
1991年ユニバーシアードサッカー日本代表監督
全日本大学サッカー連盟理事、前関東大学サッカー連盟理事長
大学スキー研究会幹事



田嶋幸三(財)日本サッカー協会副会長、FIFA理事、風間八宏、井原正巳、中山雅史、藤田俊哉、望月重良など日本代表はじめ多数の名プレイヤーを育てる。

姜 英哲氏

元大韓民国サッカー協会技術委員
元韓国大学サッカー連盟技術委員長
前 Kリーグ蔚山現代コーチ
前 成均館大学サッカー一部監督



初芝橋本高校サッカー部監督(1995年全国高校サッカー選手権大会第3位)等を務めた後、Kリーグ蔚山現代コーチに就任。その後、成均館大学サッカー部監督を2015年定年退職まで務める。その間、韓国大学全国大会優勝、デンソーカップ韓国大学選抜監督で優勝するなど指導者としても成果を出す。02から3大会連続で韓国のW杯TSGの一員として分析に携わったほか、五輪やユニバーシアード等の分析班で活躍。本学サッカー部とは2004年から交流があり、今年度は本学サッカー部臨時コーチとしても招聘している。

庄司 悟氏

DJ SPORTS株式会社取締役 CAO / チーフゲームアナリスト



1975年からドイツに33年間居住する。ドイツサッカーの4つの哲学、「ボールは丸い」「試合時間は90分」「試合後は試合前」「ベストコンディションはいつもボールにある」をポリシーのもと、ゲームデータの分析を行っている。独自の指標で、ブンデスリーガを始め、スペイン、アメリカ、日本、バルサ、レアルなどのチームを分析し、NHKの海外サッカー番組にも協力している。2014年11月ブラジルW杯を題材にした「サッカーはシステムでは勝てない」(ベスト新書)を上梓した。

マルコス 宗像氏

渋谷教育学園幕張高等学校 サッカー一部総監督



元日本代表田中マルクス闘莉王(名古屋グランパス)を日本に招き高校時代に育て上げるなど、ブラジルと日本の懸け橋となり幅広く日本サッカー界で活躍している。サンパウロ大学と東海大学で体育学を修め、ポルトガル語と日本語を完ぺきに使い分けるバイリンガル。プレイヤーとしても、名門サンパウロFC、日本サッカーリーグ東洋工業(現サンフレッチェ広島)でプレー経験をもつ。マルコス氏が育てたプロサッカー選手は、他に、ルイス、サンドロ、服部公太など、ブラジルと日本で活躍する一流選手を多数輩出している。